



▲重信川・石手川の付け替え (加筆)
 (「四国の先覚者とその偉業」から引用、加筆修正)

背景

松山を流れる重信川は、愛媛県東温市東三方ヶ森 (標高1,233m) を源流とし、延長36kmの河川です。司馬遼太郎は、「街道をゆく～南伊予・西土佐の道～」の中で重信川についてこう記しています。「日本の河川で人名がついているのは、この川だけでないか。……領内の重要な河川に家臣の名をつけるなど、よっぽどのことであつたろうと思われる」

重信川の流域には松山市をはじめ東温市、伊予郡が広がり、古くから社会・経済・文化の中心地であり、治水施設が整備される以前は甚大な土砂災害が発生していました。

アクセス 足立重信の墓所

- JR松山駅より北東へ直線距離約2km
- 松山市御幸1-525 来迎寺境内
- 緯度経度 北緯33度51分22秒, 東経132度45分58秒



四〇〇年も前の昔の話です。当時の松山道後平野は伊予の国の中心地でした。この松山平野は毎年のように水害が発生し、住民達はほとほと困り果てていました。そこに新しい殿様としてやってきたのが、加藤嘉明公あきひです。殿様は住民達の苦勞をみて、すぐに家来に川の改修を命じました。当時、重信川は伊予川と呼ばれていました。

川の改修を命じられたのは足立重信という重臣です。足立重信は川の改修のすぐれた技術を有していました。それでも伊予川は名うての暴れ川です。そのため改修工事は困難を極めました。中流から流路を北へ移すとともに、松山市の石手寺の近くにある岩堰いわせきと呼ばれる場所の固い岩盤を掘り割って石手川の流れを変え、工事は大変でした。何せ岩盤を人力とツチ (ハンマー) とノミで打ち砕いていきますから一日かけても少ししか割れません。暑い日も寒い日もみんなで力を合わせて何とか岩盤を掘り終わった時の喜びやうと言ったら歓声が天に届くほどのものでした。このような努力を積み重ねて、川の改修工事は無事に終わりました。その後、何年かして、今まで降ったことがないような大雨に見舞われました。住民達は大洪水が起るものと観念しました。しかし、一夜が明けて青空の下、堤は全然壊れていません。この光景を前にして住民達はみんな驚きの声を上げました。

これ以降、松山平野は大した洪水に襲われることもなくなったので住民達は大いに感謝しました。そして、いつとはなしに伊予川を重信川と呼ぶようになりました。これは暴れ川を治めた足立重信に心より感謝してのことです。人の名前がついた川は全国でも唯一です。そして今でも地元の人たちは足立重信の墓の掃除とお参りをかかしません。足立重信の功績は今でも人々の心に深く焼き付けられています。